

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所敷地南側の地形に関する面談
2. 日時：令和4年11月7日（月）13時30分～15時30分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

林技術研究調査官

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、正岡企画調査官

地震・津波審査部門

野田企画調査官、海田主任安全審査官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当3名

原子力設備管理部 担当1名

プロジェクトマネジメント室 担当4名（うちテレビ会議システムによる出席2名）

廃炉安全・品質室 担当3名（うちテレビ会議システムによる出席3名）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、本年9月20日の「東京電力福島第一原子力発電所敷地南側の地形に関する面談」を踏まえ、資料に基づき福島第一原子力発電所における地すべりの可能性の検討状況の説明がなされるとともに、現在実施している福島第一原子力発電所敷地南側の地形の空中写真等による地形判読の進捗状況の説明がなされた。
- 原子力規制庁は、東京電力の説明内容について事実関係を確認するとともに、以下のとおりコメントした。
 - <福島第一原子力発電所における地すべりの可能性の検討状況>
 - 段丘堆積物直下の風化部の分布状況の検討にあたっては、設置許可申請書のボーリング調査結果のみならず、3.11東日本大震災以降に実施した各種ボーリングの調査結果も考慮すること
 - 風化部による地盤の地震時応答への影響の検討については、具体的に実施する解析内容等が分かるよう記載を充実するとともに、段丘堆積物直下の風化部の分布状況の検討とは独立して実施できることからスケジュールの前倒しの可能性を検討すること
 - 風化部の地盤安定性への影響の検討について、風化部による地盤の地震時応答への影響の検討結果を踏まえ要否を検討するとしている点に関し、地盤の地震時応答と地盤安定性との関係を含めて考え方を説明すること
 - <福島第一原子力発電所敷地南側の地形の空中写真等による地形判読の進捗状況>
 - 資料提出時には、地形判読の目的（調査対象としている地すべりの形態、規模など）や具体的な論証を含めて示すこと
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨の回答があった。

6. その他

資料：

- 福島第一原子力発電所における地すべりの可能性の検討状況について（案）

以上